

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	道川由佳子（みちかわゆかこ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会 第 51 回大会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	道川由佳子、北山純、嶋田 洋徳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	人権感覚と被援助志向性の関連性の検討
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。） 本研究は人権感覚と原因帰属スタイル、援助要請意図の関連を検討することを目的として行われた。人権感覚とは、人権侵害の不当性に気づき認知する能力である。原因帰属スタイルとは、結果の原因をどこに求めるかという傾向であり、内的帰属と外的帰属に大別される。援助要請意図とは、他者に対して援助を求める意思のことである。先行研究では、人権感覚と原因帰属スタイル、援助要請意図の関連は間接的に示されるにとどまり、原因帰属スタイルと援助要請意図との関連は一貫していない。本研究では、人権感覚は原因帰属スタイルを媒介として援助要請意図に正の影響を及ぼす（仮説 1）、人権感覚は外的な原因帰属スタイルに正の影響を及ぼし、外的な原因帰属スタイルは援助要請意図に正の影響を及ぼす（仮説 2）という仮説を設定した。調査は大学生 107 名（女性 79 名、男性 28 名）を対象に Web 上で実施され、中学生用 人権感覚尺度（橘川，2009）、Locus of control 尺度（鎌原ら，1982）、被援助志向性尺度（田村・石隈，2001）を用いてデータが収集された。因子分析の結果、人権感覚は 1 因子構造、被援助志向性は「援助の欲求と態度」「援助関係に対する抵抗感の低さ」の 2 因子構造、Locus of control 尺度は「外的帰属・統制不能」「内的帰属・統制可能」「自己統制感」の 3 因子構造が抽出された。t 検定の結果、女性の方が男性より人権感觉得点が有意に高いことが確認された一方、被援助志向性に関しては性差が認められなかった。人権感覚を独立変数、援助要請意図を従属変数、原因帰属スタイルを媒介変数とした共分散構造分析を行ったところ、人権感覚から外的帰属・統制不能と、外的帰属・統制不能から援助関係に対する抵抗感の低さへの負の影響が有意であり、仮説 1 は支持されたが仮説 2 は支持されなかった。この結果から、人権感覚が高い人は、問題を外的要因に帰属し統制不能であると認識しづらい傾向があり、このことが援助関係に対する心理的抵抗感を低下させる可能性を示していると考えられる。データの収集方法や尺度の妥当性などの限界点はあるものの、本研究は心理学の分野で人権感覚が援助要請に影響を及ぼす過程を検討し、教育によって援助要請を促進することができる可能性を示唆した点で意義があるといえる。	

※無断転載禁止